地域社会学会会報

No.230　　2022.11.24

地域社会学会事務局　Office of Japan Association of Regional and Community Studies
〒480-1198　長久手市茨ケ廻間 1522-3　愛知県立大学教育福祉学部
松宮朝研究室内
TEL　0561-76-8706(直)　FAX　0561-64-1107　郵便振替　地域社会学会　00150-2-790728
E-mail jarcs.office@gmail.com　　URL　http://jarcs.sakura.ne.jp/

◆……〈　会報 230 号のトピック　〉……◆

1)第 2 回研究例会の批評論文は「地域社会学会ジャーナル」No.8（WEB 版）に掲載されます。
2)2022 年度の会費未納入の方は、納入をお願いします。詳細は 5 ページをご覧下さい。
3)会報 229 号でお伝えしましたように、今号より、会員用の会報のみを HP に掲載します。

目　次

12 月 10 日（土）開催の第 23 回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い
1. 理事会からの報告
2. 研究委員会からの報告
3. 編集委員会からの報告
4. 社会学系コンソーシアム担当からの報告
5. 事務局からのお知らせとお願い
6. 会員異動
7. 会員の研究成果情報
8. 理事会のご案内

2022 年度 第 3 回研究例会のご案内

日時　　2022 年 12 月 10 日（土）　14:00～17:00
会場　　愛知県立大学サテライトキャンパス＋オンライン（ハイブリッド方式）
※アクセス方法等は、開催 2 日前をめどに、会員メーリングリストで配信します。
第 1 報告 安藤 綾乃（一般社団法人つなぐ子ども未来。非会員）
　　地域の居場所づくりと食料支援―子ども食堂活動からの展開―
第 2 報告 三宅 雄大（お茶の水女子大学。非会員）
　　社会的投資との交差点：生活保護制度における大学等就学
※開催時間が、オンライン開催のときと異なりますのでご注意ください。
※第 2 報告の関連文献について、「2．　研究委員会からの報告」を参照してください。

12 月 10 日（土）開催の第 3 回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

1.会場にお越しのみなさま

会　場　：　愛知県立大学サテライトキャンパス
名古屋市中村区名駅 4-4-38　愛知県産業労働センター「ウインクあいち」15 階
アクセス：　JR，地下鉄，名鉄，近鉄「名古屋駅」から徒歩約 5 分。

https://www.winc-aichi.jp/access/

2. オンラインでの参加のみなさま

＜事前の準備のお願い＞
◆事前に Zoom のアプリをインストールしておいてください。インストール済みの方は、「アップデートを確認」で最新バージョンに更新しておいてください。
◆Zoom のアクセス方法等は、開催 2 日程度前をめどに、会員メーリングリストで配信します。
◆Zoom のリンクやミーティング ID、パスワードは、他人に教えないでください。

＜当日のお願い＞
◆待機室を設定している場合､所定時刻の 5 分ほど前に設定を解除して入室できるようにします。

ただし、直前の打ち合わせが長引くなどで、待機室の設定解除が遅れることもあります。その場合は待機室でお待ちください。
◆ミーティングルームに入ったら、司会者と報告者以外は、マイクは「ミュート」にして、発言時のみ「ミュート解除」にしてください。ビデオはオンでもオフでも結構です。適切な操作がなされていない場合には、主催者がミュートにするなどの操作をすることがあります。
◆画面に表示する氏名は、「フルネーム（所属）」に変更しておいてください。
◆研究例会は、研究委員会が記録用にレコーディングします。接続・参加をもってレコーディングに承諾いただいたものとみなします。研究委員会以外の方（報告者も含めて）が Zoom の画面を撮影したり、録画・録音したりすることは禁じます。

＜配布資料について＞
◆報告者から当日配布資料があるときは、Zoom のチャット機能を利用して配布します。
◆配布のタイミングは、各報告の開始時と開始 10 分後の 2 回です。

＜質問・発言について＞
◆以下のいずれかの方法でお願いいたします。
①Zoom の「リアクション」にある「手を挙げる」を表示させる。
②Zoom のチャットに、質問内容を書き込む
③Zoom のチャットに、質問がある旨を書き込む

＜Zoom 終了後の交流時間の取りやめについて＞
◆オンライン開催では、研究例会の終了後もしばらく Zoom を開放し、報告者・参加者の交流の時間としてきましたが、今回はハイフレックス開催のため片付け等の都合から、Zoom での交流時間は設けないこととさせていただきます。

＜当日の Zoom 操作に関する相談窓口＞
◆当日、「接続できない」などの不測の事態に備えて、Zoom 操作に関する相談窓口としてサポートセンターを開設します。メールでご連絡ください。

当日サポートセンターの連絡先
◇メールアドレス　matumiya[アット] ews.aichi-pu.jp [アット]を@にしてください。
◇当日配布資料の再配布はありません。

＜問い合わせ先＞
◆当日の Zoom 操作に関すること以外は、研究委員長（清水洋行、hishimizu [アット] chiba-u.jp）までメールでお問い合わせください。[アット]を@にしてください。

１．理事会からの報告

2022 年度地域社会学会第 3 回理事会は、2022 年 10 月 15 日（土）の 10 時 30 分から 12 時分まで、関東学院大学（ハイブリッド形式）で開催されました。ここでは、審議事項として 7 件が議論されました。
出席（14 名、敬称略）： 伊藤亜都子、木田勇輔、小山弘美、清水洋行、高木竜輔、田中里美、玉野和志、中澤秀雄、舩戸修一、松宮朝、町村敬志、丸山真央、望月美希、吉野英岐

(1) 2022 年度研究例会の日程について

第 3 回は 12 月 10 日（土）、第 4 回は 2 月 18 日（土）に決定しました。

(2) 会報の公開方法について

会報 229 号でお伝えしたように、HP での会報の公開について、会計報告について公開しても問題がないため、一般用を廃止し、会員用に一本化します。

(3) 事務局の外部委託について

前回大会総会で承認された、事務局の外部委託について、現事務局（松宮、松木理事、木田理事）で、アトラス社と契約し、作業を進めています。進捗状況について、随時会報等でご報告いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

その他の内容については、各委員会報告・事務局報告をご覧ください。

（松宮　朝）

２．研究委員会からの報告

去る 10 月 15 日（土）に 2022 年度第 2 回研究例会が、初めての試みとなる対面とオンラインによるハイブリッド型で開催されました。対面参加が 17 名、オンライン参加が最大時で 39 名でした。当日の報告の概要は『地域社会学会ジャーナル』第 8 号の報告論文と批評論文をご参照ください。対面による参加者は少人数でしたが、休憩時間や例会終了後に初参加の会員の顔合わせや活発な情報交換・交流ができ、対面参加のよさを実感しました。同時に、オンラインにより遠方の会員を含む多くの会員の参加があり、ハイブリッド型の利点があったと考えます。他方、完全オンライン開催と異なり、一部で音声の聞きづらさやカメラの扱い等について円滑に管理できていない場面など、オンライン参加者のみなさまにはご面倒をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。最後となりましたが、当日の会場および機材等の手配・準備にあたり、小山弘美会員と土居洋平会員には多大なご尽力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

研究例会に先立ち、第 3 回研究委員会を 9 月 16 日（金）にオンラインにて開催し、今期の研究テーマに検討し、10 月の研究例会の第 1 報告はその検討をふまえたものとなりました。あわあせて第 3 回以降の研究例会・シンポジウムの登壇者の検討および 10 月の研究例会の会場準備・進行の確認とジャーナル執筆者、理事以外の研究委員の候補等について検討しました。新たな研究委員として吉村真衣会員（三重大学）の就任が、10 月 15 日の理事会にて承認されました。第 3 回研究委員会の参加者は以下の通りです（敬称略）。小山弘美、阪口毅、高木竜輔、田中里美、西野淑美、前島訓子、清水洋行。研究例会後の 10 月 28 日（金）に第 4 回研究委員会をオンラインにて開催しました。10 月の研究例会での報告と質疑応答をふまえつつ研究テーマについて検討し、理論的観点として、「移動性」（移動、移動可能性、非移動等）、「領域性」（脱領化、再領域化等を含む）、「複雑性」を軸とすることとしました。あわせて今後の研究例会・シンポジウムの登壇者、12 月の研究例会のジャーナル執筆者等の候補を検討しました。第 4 回研究委員会の参加者は以下の通りです（敬称略）。小山弘美、阪口毅、高木竜輔、田中里美、前島訓子、西野淑美、吉村真衣、清水洋行。

次回の研究例会は 12 月 10 日（土）です。開催方式は、今回と同様、対面参加とオンライン参加のハイブリッド型での開催です。会場は、庶務担当理事の松宮朝会員にお世話いただき。名古屋駅至近の愛知県立大学サテライトキャンパスをお借りできることとなりました。開催時間はコロナ禍前と同じ 14 時～17 時ですのでご注意ください。第 1 報告は、名古屋市内で常設型の子ども食堂とともに企業と連携してロッカー型冷蔵庫を用いた 24 時間のフードパントリーを実施している一般社団法人つなぐ子ども未来・代表理事の安藤綾乃氏（非会員）に会場から実践報告をしていただきます。当団体の HP はこちらです（https://tsunagu-kodomo-mirai.org/）第 2 報告は、社会福祉学が専門の三宅雄大氏（お茶の水女子大学。非会員）に、生活保護と就学機会をめぐる課題を中心に社会政策の課題を中心に報告していただきます。貧困、社会保障、新自由主義との関連から生活保護と就業機会をめぐる課題を中心に報告していただきます。関連文献著作として『「縮減」される「就学機会」：生活保護制度と大学等就学』生活書院（2021 年）、「大学等就学と最低生活保障／自立助長―未来時制に侵食される現在」『現代思想 2022 年 4 月号 特集＝危機の時代の教育』青土社」（2021 年）があります。実践者と隣接領域の研究者からの 2 つの報告を通じて、今日の社会において生活困難な状況にある人々と、その人々をめぐるつながり、

新たなシステム、社会制度等の実態に接近し、地域社会（学）の役割や課題について検討していきたいと考えています。
　みなさまのご参加をお待ちしています。

（清水 洋行）

３．編集委員会からの報告

7 月 30 日に第 2 回編集委員会を、10 月 13 日に第 3 回編集委員会をオンラインで開催しました。第 2 回編集委員会では、書評本の選定を行い、それぞれの担当者に原稿執筆を依頼しました。また新設コーナーである書評リプライについても著者からの快諾を得ました。第 3 回編集委員会では、9 月末締切で 6 本の自由投稿論文の提出があり、査読担当者を決定しました。お忙しいなか、査読をお引き受けくださった会員の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

（舩戸 修一）

４．社会学系コンソーシアム担当からの報告

社会学系コンソーシアムの 2022 年度（第 15 回）シンポジウムについて，以下の通りお知らせします．詳しくは，ウェブサイトでご確認ください．オンラインでの開催ですので，関心のある方はふるってご参加ください．

「ダイバーシティ推進と日本社会の<不平等>」
主催：社会学コンソーシアム・日本学術会議社会学委員会
日時：2023 年 1 月 28 日(土)13:00~16:00(ZOOM によるオンライン開催)
※ オンラインの URL や参加申し込みなどの情報は年末に告知いたします。
コンソーシアムのウェブサイト：http://www.socconso.com

（玉野 和志）

５．事務局からのお知らせとお願い

(1)会費納入状況

2022 年 10 月 11 日時点の会員は 387 名（一般 350 名、院生 22 名、終身 15 名）で、会費納入率は 61.8%でした。
　今年度までの 4 年以上滞納者は 5 名おり、会員資格喪失について審議事項になります。

(2)会報 229 号・ジャーナル No.7 の発行

学会ＨＰ上で会報 229 号とジャーナル No.7 が発行されました。

(3)2022 年度会費納入のお願い

2022 年度の会費納入について、未納入の場合は納入をよろしくお願いします。郵便局の窓口備え付けの青い払込用紙に、口座番号（00150-2-790728）、加入者名（地域社会学会）、会員ご本人の氏名・ご住所と、通信欄に「2022 年度会費」を明記の上、会費（一般会員 6,500 円、院生会員 5,000 円）のご送金をお願いします。2022 年度分の会費の振込確認ができた会員には、『地域社会学会年報』第 34 集をお送りします。

(4)会員の研究成果情報の提供のお願い

2021 年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙（地域社会学会 WEB サイトからダウンロードできます）の情報を、事務局宛のメールでお送りください。ご協力よろしくお願いします。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願いします。

（松宮　朝）

６．会員異動（敬称略）

＜新入会員＞
・野村恭代（大阪公立大学都市科学・防災研究センター／大学院現代システム科学研究科）

研究テーマ：施設コンフリクトの合意形成に関する研究（全国）
地域のつながりを基調とした総合相談体制の構築（北海道、神戸、大阪、イタリア）
地域居住をめぐる課題（大阪）
地域防災・福祉防災（大阪、広島）

・鈴木将平（国立国際医療研究センター臨床研究センター臨床研究統括部）
研究テーマ：医学研究・教育のための篤志献体（遺体提供）の歴史研究
希少難治性疾患の ELSI（民族・地域集団を対象とした遺伝学的検査の歴史）研究
立川市および昭島市の集合住宅、移住の歴史研究

（以上、2022 年 10 月 15 日理事会で承認）

７．会員の研究成果情報(2021 年～2022 年)

2021 年 分担執筆

武田俊輔「祭礼にかかわる地方都市の諸アクターと社会的ネットワーク」植木行宣・福原敏男・西岡陽子・橋本章・村上忠喜編『山鉾屋台の祭り研究事典』思文閣出版:210-218.（2021 年 3 月）

武俊輔「都市祭礼の興趣とダイナミズムは維持されるのか：祭礼の『マニュアル化』がもたらすもの」牧野修也編『変貌する祭礼と担いのしくみ』学文社:73-115.（2021 年 10 月）

武田俊輔「『囃す』というミュージッキング：シャギリが生み出す祭礼の場と関係性」野澤豊一・川瀬慈『音楽の未明からの思考：ミュージッキングを超えて』アルテスパブリッシング:179-194.（2021 年 12 月）

2022 年　書籍

出口剛司・武田俊輔編『社会の解読力〈文化編〉：生成する文化への反照』新曜社.（2022 年 3 月）

2022 年　分担執筆

武田俊輔,「地方都市社会論の構築に向けて：『伝統消費型都市』概念再考」出口剛司・武田俊輔編,『社会の解読力〈文化編〉：生成する文化への反照』新曜社:265-284（2022 年 3 月）

武田俊輔「COVID-19 下における祭礼・民俗行事の現状をどう分析するか：長浜曳山祭の縮小開催を事例として」日本生活学会 COVID-19 特別研究委員会編『COVID-19 の現状と展望：生活学からの提言』国際文献社:265-284（2022 年 6 月）

2022 年　論文

野邊政雄, 2022,「出身国がメルボルンの高齢女性の主観的幸福感に及ぼす影響： 戦後の好景気の時代に出産・子育てをした女性の場合」『理論と方法』37 (1), 53-65

Takeda, Shunsuke, 2022, Continuation of Festivals and Community Resilience during COVID-19: The Case of Nagahama Hikiyama Festival in Shiga Prefectre, Japan, in Japanese Journal of Sociology: 56-66.（2022 年 3 月）

武田俊輔「新型コロナ禍と祭礼行事」『日本民俗学』(309):99-109（2022 年 5 月）

2022 年　その他

舩戸修一・祐成保志・武田俊輔・加藤裕治「NHK 農事番組と地域社会（1）～（4）」『村落社会研究ジャーナル』(56)14-21（2022 年 4 月）

武田俊輔「コロナ禍における都市祭礼のレジリエンス：長浜曳山祭の再開を事例として」『月刊自治研』64 巻 755 号:20-27（2022 年 8 月）

８．理事会のご案内

第 4 回理事会
日時　12 月 10 日（土）10：30～12：30（ハイブリッド）